

演説会成功へ奮闘ひろがる

愛知県議選の春日井選挙区(定数 4)で、柳沢けさみ候補の必勝を期す尾中地区は 24 日、佐々木憲昭衆議院議員をむかえて演説会を開催。320 人の参加者で会場はいっぱいになりました。

佐々木議員は、開会前に「変貌する財界」のサインセール。25 人が購入しました。

柳沢候補は、地区委員長といっしょに、春日井商工会議所を訪問し、演説会の案内をしました。対応した役員が「少子化対策が重要だ。延長保育や産休明けに職場復帰できるなど、働きながら子育てできる制度の確立が必要だ」「大企業が利益を下請けに還元すべき」などと語ってくれました。

演説会成功と結合して、支部のとりくみも広がりました。南城支部は、全党員に参加の呼びかけをひろげました。「病気で党员として何もできないと悩んでいたが、演説会にいてみよう」と言う人もありました。

新人の伊藤けんじ市議候補は高蔵寺支部の人たちと行動。2 日間で 6 人に「赤旗」日曜版を購読してもらいました。小中学校の同級生の家でも歓迎されました。

藤山台支部は、内田けん市議と 3 人で行動。元読者

愛知・春日井



や後援会員を訪問し、7 人と対話、支持 7 人、日曜版も 6 人が購読しました。支部の O さんが気迫をこめて訴えると「ぜひ、がんばってほしい」と次々購読しました。

西部支部は、内藤とみ江議員と 5 人で行動、3 人が日曜版購読。中部支部は 2 人で行動し 3 人が日曜版を購読してくれました。

小牧市と清須市からも議員や支部の人たちが春日井に入り、宣伝カーを運行、ビラも配布しました。

「今度こそは」と後援会員が支持ひろげる 四日市

みゆきが丘の後援会員の Y さんは、後援会ニュースやジャンボビラなど、チラシができる都度、近所の 30 人に届けてくれています。今回、とりあえず 10 人分の紹介カードをはぎわら事務所へ届けてくれました。

選对本部が行きつけのガソリンスタンドの店長は「今度の選挙はいったいどうなってるの。入れ替わり立ち替わり『頼む』『頼む』と、どこもすごい勢い。そんなんに負けないで、はぎわらさんには、なんとしても当選してもらわないと」と言います。「紹介カ

ードです。あとでまたもらいに來るので書いて」とお願いすると、「いま書くわ。子どもも 20 歳になったので、3 人は大丈夫」とその場で書いてくれました。

ある時、はぎわら事務所に、紹介カードがなくなったので追加がほしいと電話が入り、さっそくリーフとともに届けました。しばらくして「知り合いの自民党の『バリバリ』も、いまの自民党ではあかん。共産党しかない、とカードを書いてくれたよ」とカードが事務所に届けてくれました。(「四日市・県市議選二一」から)

党の「提案」もって病院訪問

23 日、せこゆきこ元衆議院議員も参加して、きしの知子県議候補、尾関宗夫市議が、共産党の「深刻な医師不足を打開し『医療破壊』から地域を守る提案」を持って、一宮市民病院、大雄会病院、千秋病院を訪問し、病院長や事務長と懇談しました。

どの病院でも深刻な医療現場の実態が語られました。医師は長時間労働でくたくた。医療事故の不安を抱え、このままでいけば、救急医療をやらない

愛知・一宮

病院も出ており、文字通り地域医療は崩壊する危険をもっています。

共産党の政策には、どこでも共感が示されました。地区委員会は、大病院だけでなく、地域の医師や、老人会、町内会長、子ども会などに、支部が議員といっしょに党の提案をもって訪ね、ひろく対話することを呼びかけています。(「二大選挙勝利をめざす一宮尾北地区ニュース」から)